

恵海著「長期デフレの足音がする」大機小機、日本経済新聞 2010年8月7日刊を読む

長期デフレの足音がする

1. 米国、欧州連合(EU)も長期デフレの様相を呈し始めているようだ。

(1) 米国経済はバーナンキ米連邦準備理事会(FRB)議長の議会証言にあった「異例な不確実性」に象徴されている。

FRB 金融政策局では、優秀なエコノミストが膨大なデータを駆使して詳細な分析を日々行い、議長に報告している。

従って「将来にわたる不確実性が異例なほど高い」と議長が明言した事実は、未知の領域に踏み込んでいることを示唆している。

(2) 膨大な需給ギャップ

悪化したままの家計のバランスシート

物価の鎮静

失業率の高止まり

(3)などを勘案すると、デフレという魔女が、バーナンキ議長を後ろから抱きしめようとしている、といえよう。

2. (1) EU の域内銀行の資産査定(ストレステスト)の結果は、誰が見ても銀行の不良資産の実態を過小評価している。

(2) 今後、

償却増

資本の減少

貸し渋り

実体経済の悪化

財政再建優先による需要喚起策の遅延

(3) などから、長期停滞の様相が徐々に明らかになるう。

(4) 強気のトリシェ欧州中央銀行(ECB)総裁は、景気より財政再建を重要視しているが、デフレの魔女はトリシェ総裁の白髪を既につかんでいるように見える。

3.(1)日本は

家計所得の伸び悩みを主因とする消費の低迷
失業率の高止まり
機械受注の頭打ち
対ユーロ・対ドルでの円高進展
インド・中国の金融引き締めによる外需の鈍化予想など

(2)デフレの魔女は白川日銀総裁の足をからめ取り、先行きさらに 10 年を失う沼に引き込もうとしている。

4.(1)こうした長期デフレの魔女を振り切る方策について、バーナンキ議長は「財政再建より需要喚起を優先すべきだ。必要とあれば追加的金融措置を講じる」と述べている。

(2)一方、トリシェ総裁は「財政再建こそが景気回復を確固たるものとする」と主張している。しかし、歳出削減が成長に直結する保証はない。

(3)これに対し、日本の政策ポジションは不明確である。

(4) ばらまきの支出が継続し、積極果敢な需要喚起策は実行されそうもない。
金融面では「日本のデフレは貨幣的現象ではない」など奇妙な説明が横行している。
「ヴィクトリアン長期停滞」の発生・終結では明らかにマネーが決定的な役割を果たしている。

(5)日本経済に対する期待を劇的に変え、長期デフレから脱却する方策として、
非不胎化介入による円高阻止と
追加的緩和が求められている。

[コメント]

米欧日に迫り来るデフレの現況と対応策を短い文の中で手際よくまとめた恵海氏の文章は参考になる。円高をどう食い止めるかが第一の課題か。